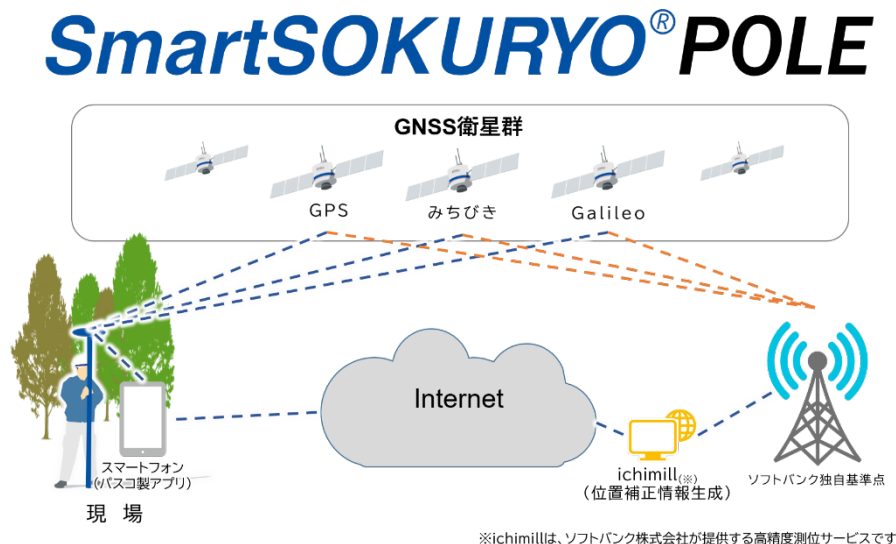


(報道資料)

森林内での現地調査ツール「SmartSOKURYO POLE」のサービス提供を開始 - 森林整備の促進と境界明確化の調査作業効率を向上 -

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、以下：パスコ）は、森林整備の促進を支援するため、境界明確化作業の効率化に有効な森林内での現地調査ツールとして「SmartSOKURYO POLE（スマートソクリョウポール）」のサービス提供を2022年8月9日より開始します。

本サービスを利用することで、これまで多くの労力を要してきた森林内での境界明確化作業の効率を改善するとともに、特別な知識や経験に左右されない現地調査が可能となります。



■背景

林業の成長産業化と森林情報の適切な管理を行うためには、所有者情報や森林境界の明確化が必要です。しかしながら、林業離れや所有者の高齢化などにより、所有者や森林境界が不明確な森林が増えてきたことから、森林整備が円滑に行われず、森林が荒廃するなど、さまざまな課題が生じています。この課題解決に向けて、2019年4月より森林経営管理制度^(※1)が開始され、取り組みが進んでいますが、最大の課題は森林境界明確化と不明所有者の探索であると言われています。

こうした背景から、パスコではリモートセンシング技術を活用した効率的な森林境界明確化など自治体や林業経営体の森林整備の促進に向けた取り組みを支援してまいりました。その中で、従来多くの労力を要して行われていた森林境界明確化の現地作業の効率化を目指し SmartSOKURYO POLE の開発を行い調査ツールとして運用してきました。運用の中で、森林整備の促進が行われている自治体や林業経営体から利用してみたいとの声を頂き、今般、森林境界明確化の現地調査に従事する事業者向けのサービスとして提供を開始するものです。

※1 手入れの行き届いていない森林について、市町村が森林所有者から経営管理の委託（経営管理権の設定）を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託するとともに、林業経営に適さない森林は市町村が公的に管理（市町村森林経営管理事業）をする制度（林野庁 HP より引用）

■「SmartSOKURYO POLE」の特徴

1) 計測の手間を削減

軽量で持ち運びが容易なことに加え、単独での計測調査が可能です。パスコ独自開発のアプリを使用し、簡単な操作で計測調査が行え、従来2~3名で行っていたコンパス測量の半分以下の人員かつ短時間で現地調査が行えます。さらに、あらかじめ登録しておいた調査地点までの距離と方向を案内するナビゲーション機能を備えており、目標地点を探索する時間の短縮が可能です。



2) 現地調査の精度を高める

森林内での利用に適した2周波マルチGNSSレシーバ^(※2)を採用し、森林内での受信状況を改善する高性能アンテナを備え、リアルタイムで座標の計測が行えます。

また、計測結果をその場で確認できるので、作業の手戻りも抑止できます。

そのほか、観測した座標を視覚的に確認できる機能や、計測結果の品質判定を行う機能を備えています。

※2 GNSS：米国のGPS、日本の準天頂衛星（みちびき）、ロシアのGLONASS、欧州連合のGalileoなどの衛星測位システムの総称



3) 使いやすい定額サービスを採用

本体、スマートフォンとアプリ、通信サービスとソフトウェア、故障時の代替機貸与、サポートサイトなどをすべてまとめた^(※3)定額サービスです。

契約期間は、1年または3年からお選びいただけます。

1年契約の場合、価格は70万円（税別）

3年契約の場合、価格は140万円（税別）

※3 伸縮ポール、水準器、二脚・三脚などは含まれておりません

別途ご用意ください



【詳細はホームページに掲載しています】

<https://www.pasco.co.jp/products/shinrin/>

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社パスコ

<https://www.pasco.co.jp/>

（報道機関）

広報部

press@pasco.co.jp

（お客様）

お問い合わせフォーム

<https://www.pasco.co.jp/contact>

プレスリリースの内容は発表時のものです